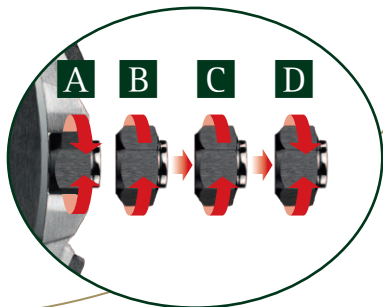


INSTRUCTIONS FOR USE
MODE D'EMPLOI

CHRONOGRAPH

CALIBRE 3126/3840
SELFWINDING

AUDEMARS PIGUET
Le Brassus



日本語

使用説明書の目次はインタラクティブになっています。
読みたい項目のタイトルもしくはサブタイトルをクリックしてください。

目次に戻りたい場合は縦に配された白いインデックス
「日本語」をクリックしてください。

保証とお手入れ

時計の保証、および推奨するお手入れ方法に関する全ての詳細な情報は、証明書および付属の保証書に記されています。



目次

イントロダクション 175ページ

- オーデマ ピゲのマニファクチュール

時計について 178ページ

- オートマティック クロノグラフ 3126/3840
- ムーブメントの特徴

この時計について 184ページ

- ムーブメント
- ムーブメントの仕様
- 特徴

機能の使い方 186ページ

- 時計の表示と機能
- 時刻合わせ
- 時刻合わせ時のテンプの停止
- ムーブメントの巻き上げ
- 日付の調整
- クロノグラフの使用方法
- タキメーターの使用方法



イントロダクション オーデマ ピゲ マニュファクチュール

時計製造技術の発祥の地、ジュウ渓谷

ジュネーブの約50 km北、スイス・ジュラ山脈の中に、今日までその自然の魅力を保っている地域、ジュウ渓谷があります。この山岳地帯は気候が厳しく、土壌も痩せていたため、この地に根を下ろした人々は18世紀の中頃に、農業以外の収入の道を探すことを考えました。コンビエと呼ばれたこの土地の人々は、手先の器用さと新しいものを創造する力、また不屈の精神を活かして、時計製造業へと発展していくことになりました。

こうして作られたムーブメントは質が高く、ジュネーブの企業に大変な好評をもって迎えられ、完全な時計に仕上げられたのでした。

1740年以降、ジュウ渓谷のみで時計製造業は自立した産業として発展することができるようになりました。このとき以来、この地域は、ある年代記の1881年の項に記されているように、「急速に発展を遂げた桃源郷」へと変貌したのです。





偉大なる冒険に挑んだ2つの名前

1875年、複雑時計の製作に情熱を傾ける2人の若き天才時計職人、ジュール＝ルイ・オーデマとエドワール＝オーギュスト・ピゲが、高級時計産業が盛んな地、ジュウ渓谷で2つの才能を集結させ、複雑機構を搭載した時計を開発・製作しようと決意しました。2人の決意、想像力、そして規律の正しさは、ただちに成功を収めました。1885年ごろ2人はジュネーブに支店を構え、1889年のパリ万国博覧会の際には様々な超複雑懐中時計を発表して、新たな取り引き関係を広げます。オーデマ ピゲのマニュファクチュールは年々と発展を続け、例えば1892年には初めてのミニッツリピーター機能付きの腕時計、1915年にはそれまで実現されたことのない5分単位ミニッツリピーター機能を備えた最小ムーブメントを製作するなどして、高級時計産業の歴史を彩ってきました。

1918年からは、創設者の息子たちが事業を受け継いでいます。男性用、女性用の腕時計の製作に卓越した技術を発揮し、極薄の洗練された新しいムーブメントを作り出しています。1929年のウォ

ール・ストリート株価大暴落によって厳しい経営を強いられるものの、粘り強さと信念を持ち続けることで、まずスケルトンと呼ばれる時計の製作を再び軌道に乗せ、その後クロノグラフ付き時計の製造に乗り出しました。しかし、この新しい勢いも、第二次世界大戦によって突然中断を余儀なくされてしまいます。戦後は再編成をし、マニュファクチュールは、「伝統と革新」を追求しつつ、ハイエンドウオッチの製作に注力。そして特に、クリエイティブの斬新さという方針により、戦略は実を結んだのです。



国際的な成功を収めたオーデマ ピゲ は、1972年にステンレススティールを用いた世界初のラグジュアリースポーツウオッチとして発表され、発売と同時に大きな成功を収めたロイヤル オークの製作をはじめ、1986年に発表された世界初の自動巻きの極薄トゥールビヨン腕時計などの製作を続けてきました。以来、マニュファクチュールの創造のひらめきは衰えることなく、比類ないムーブメントを備えた独自の美しさを持つ時計を世に送り続けています。こうして80年代末には複雑時計のテストをコンテンポラリーなものに一新し、1999年には見事なコレクション、トラディション オブ エクセレンスを発表します。オーデマ ピゲはこのシリーズの一環として、オーバルケースデザインのミレネリーのトラディション オブ エクセレンスNo.5を発表しました。この時計には、パワーリザーブ・インジケーター機能、デットビートセコンド機能、垂直に配された永久カレンダーが備わっており、さらには潤滑油を必要とせず、革命的な高い効率で機能する新脱進機システムを搭載することにより、伝統に根付いた大胆なスピリットを実現しながら、未来をも約束しています。

時計について

オートマティック クロノグラフ3126/3840

オーデマ ピゲのキャリバー3126/3840 は、デジタル表示デイトとクロノグラフ搭載の自動巻ムーブメントです。これはセンターセコンド、数字によるデイト表示を備えた自動巻ムーブメントで、機能性、時計としての性能、そして最高レベルの美学を完璧に融合させています。

伝統と革新

マニュファクチュールであるオーデマ ピゲは、創業以来つねに自主性を守り抜こうと努力してきました。だからこそオーデマ ピゲはムーブメントの自社製作にこだわり、オーデマ ピゲ特製キャリバーを開発したのです。それらのキャリバーには、バランスよく配置されたブリッジ、手作業による仕上げ、構成部品の装飾などの中にある、ひときわ目立つAPのサインが刻まれています。均整の取れたエレガントなデザインは、横たわるテンプ受けによって一段と強調されています。

オートマティック クロノグラフ

時と場合によって、2つのアクションを別々に測らなくてはならない時が決まっているものです。そのような時にクロノグラフは欠かせない道具となります。

現代におけるクロノグラフの歴史は、ジュウ渓谷の時計職人アドルフ・ニコルが1844年にコンプリケーションとして特許登録したことに始まります。

オーデマ ピゲのクロノグラフは自動巻きの腕時計です。時計をつけた腕の動きによって、ムーブメントを動かすのに必要なエネルギーを生み出します。このエネルギーは、22Kゴールド製の回転錘によって蓄えられ、歯車によってゼンマイに伝えられます。スプリングが徐々にバレル軸に巻き付くことで、エネルギーが蓄積されます。蓄えられたエネルギーはコンスタントにムーブメントに供給されます。

時計をつけた方の運動量や生活習慣の違いにより、数時間から数日の範囲でパワー・リザーブが上限に達します。

過大な負担を防ぐために、巧妙なシステムによりゼンマイが適当なタイミングで香箱内を空転します。

タキメーター

タキメーターとはダイヤル上に施されたスケールで、ある一定の距離（通常 1000 m）を通過するのにかかった時間で平均時速を測る機能です。

この速度は通常km/h単位で表わされ、クロノグラフ針により直接ダイヤル上で読み取れます。この時計は時速60 kmから600 kmまで読み取れます。

時計について

ムーブメントの特徴

調速機構

■ 掛け渡し型テンプ受け ①：

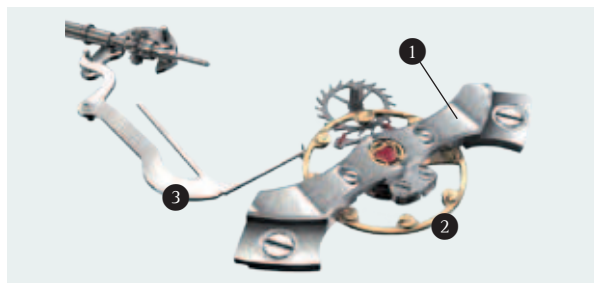
テンプの位置を正確に保ち、衝撃時の耐久性と高精度の歩度を保証します。

■ 8個の錘をつけた偏芯錘型テンプ ②：

スパイラルの作動有効な長さを変えずに時計の歩度を調整することのできる8個のマスロットによる変動慣性モーメントのテンプ。

■ 時刻合わせ用の秒針停止レバー ③：

リューズを引き出すと秒停止レバーが自動的に作動します。これにより秒針を瞬時に止めることができ、正確な時刻合わせが可能になります。



輪列機構

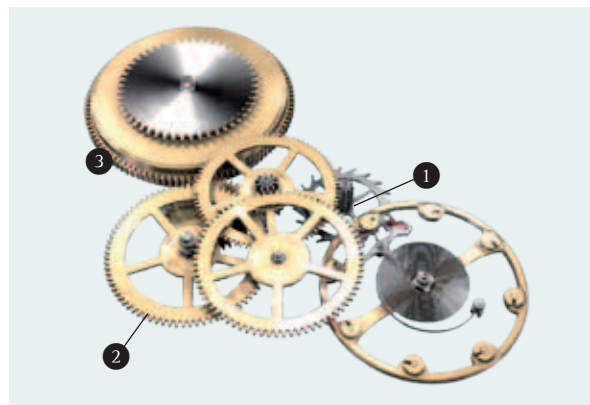
オーデマ ピゲの厳しい品質管理のもとに製造された輪列機構は、以下の基準を満たしています。

■ カナは研磨済みです ①。

■ ほぞとほぞ穴はバニシ仕上げ。

■ 機能に影響のない歯車の表面はゴールド仕上げでサークル模様が施され ②、アームには面取り加工、エッジにはダイヤモンドポリッシングが施されています。

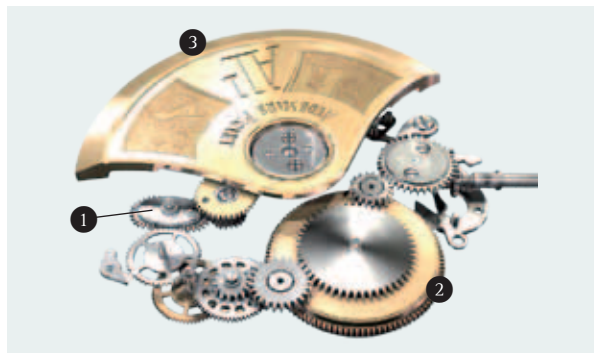
■ 歯車の歯は構造面からも機能面からも完璧な歯の表の仕上がりを期すため、ゴールドプレート処理後にフライス加工が施されます ③。



自動巻機構

このキャリバーは以下の基準をクリアしています。

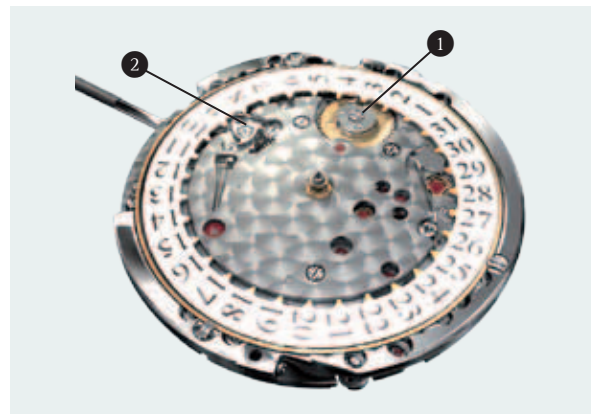
- 歯車とゼンマイへの摩擦を最小限に抑制。
- スピーディーな双方向への巻き上げ ①。
- 長時間（約50時間）のパワーリザーブを有するバレル ②。
- セラミック製ボールベアリング上にセットされた22Kゴールド製ローター ③。



カレンダー機構

カレンダー表示は以下の基準を満たしています。

- カレンダーを作動させるモビールにより、デイトは零時にジャンピング ①。
- 修正ボタンによるカレンダーディスクのクイック修正 ②。
- カレンダーのディスクはロックにガイドされ、摩擦を抑えるためルビー上を作動しています。



時計の仕様について 基本ムーブメント

キャリバー 3126/3840



ケースバック



ダイヤル側

ムーブメントの技術仕様

ムーブメントの厚さ: 7.16 ミリ

ムーブメントの直径: 29.92 ミリ

振動数: 3 Hz (21,600 振動/時)

石数: 59

パワーリザーブ (ミニマム): 約 50 時間

双方向回転自動巻

変動慣性マスロット使用テンプ

平面スパイラル

ネジ付可動ピトン留め

部品数: 365

特徴

時刻調整中は、テンプが停止 (秒針の停止)

シャトル クロノグラフのメカニズム

セラミック製ボールベアリング使用22Kゴールド製ローター

ダイヤモンド研磨仕上げのブリッジアングル

ブリッジのレーンに反転円周状コート・ド・ジュネーブ模様

機能の使い方

腕時計の表示機能

(図を参照)

分を記録すると共に、クロノグラフ機能により微妙な時間を精密に(1/6秒)測定します。

- ① 時針
- ② 分針
- ③ スモールセコンドの針 (12時位置)
- ④ クロノグラフの針
- ⑤ 30分積算計の針 (9時位置)
- ⑥ 12時間積算計の針 (6時位置)
- ⑦ 日付窓
- E クロノグラフ機能のラップボタン
一回押す: スタート
再度押す: ストップ
- F ゼロに戻す押しボタン

この時計は3~4つのポジションを有するリューズを備えています。

- A ねじ込まれた位置のリューズ
(ロイヤル オークの中のいくつかのモデルのみ)
- B 位置 手巻き
- C 位置 クイック日付修正
- D 位置 時刻合わせ

＜注意＞ロイヤル オークはモデルによっては、リューズを緩めて所定の位置に引き出す必要があります。作業後は防水性を保証するために再び(A)位置までしっかりと締めてください。



機能の使い方

時刻合わせ

ロイヤル オークはモデルによっては、リューズを緩めて所定の位置に引き出す必要があります。緩めるとリューズは自動的に **B** 位置にセットされます。

リューズをポジション **D** に引き出します。時刻調整は時計回りに回して行うことをおすすめします。分針と秒針をきちんと合わせるには、分針を分の半分だけ先に進めて下さい。これによりリューズを巻上げポジション **B** に戻す時に針調整のあそびが補正されます。

注意: 日付を調整する時に正午と零時を間違えないようにご注意ください。

時刻合わせ時のテンプの停止

リューズを引き出すと秒針と同時にテンプも自動的に停止します。これにより正確な時刻合わせが可能です。

ムーブメントの巻き上げ

ロイヤル オークはモデルによっては、リューズを緩めて所定の位置に引き出す必要があります。緩めるとリューズは自動的に **B** 位置にセットされます。

時計が停止した場合は、リューズを (**B** 位置で) 最低30回回転させることにより、巻き上げることができます。その後は手首の動きにより、自動巻機構が時計の正常な作動を持続させます。

注意: 時計を腕に着けていない時、自動巻の巻上げシステムは機能せず。最初の巻上げの量によりパワーリザーブの残っている50時間までの間に止まります。

日付の調整

誤作動を防ぐため、日付メカニズムが作動していない午前1時から午後6時までの間に操作を行うことをお勧めいたします。

ロイヤル オークはモデルによっては、リューズを緩めて所定の位置に引き出す必要があります。

時計が正確な日付を表示していない場合は、リューズを **C** 位置 (日付のクイック修正) に引き出し、合わせたい日付が現れるまで時計回りに回してください。

ロイヤルオークはモデルによっては、防水性を確保するため操作後にリューズを **A** の位置までよく締める必要があります。

機能の使い方

クロノグラフの使用方法

スタート

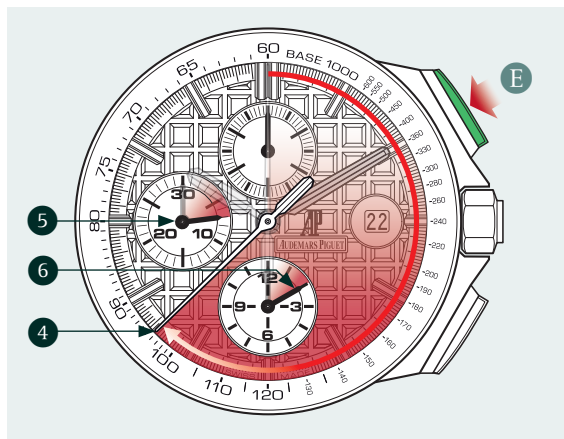
プッシュボタン **E** を押します

ストップ

再びボタン **E** を押してください

記録された時間の読み方は、以下の様に行います。

- クロノグラフの針 **4**
- 分カウンターの針 **5**
- 時間カウンターの針 **6**



ゼロに戻す

プッシュボタン **F** を押します



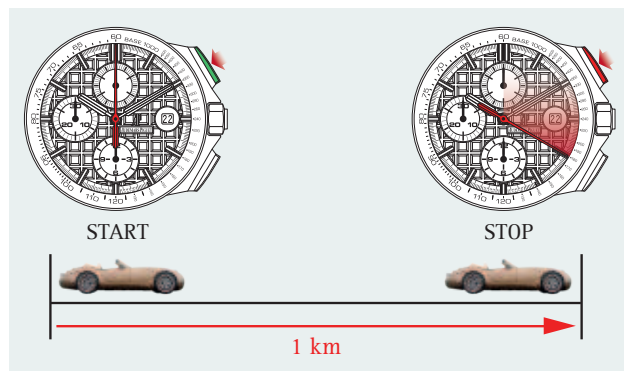
時間測定の続き

一旦ストップしてから、クロノグラフを、ゼロに戻さずに、随時再スタート、再ストップを行い、最初とそれ以後の測定値を加算する事が出来ます。操作中も、時計は正常に進みます。

機能の使い方

タキメーターの使用方法

クロノグラフ機能に結び付けられたタキメーターの目盛りにより、スピードを測ることができます。クロノグラフを作動させ(START)、1 km地点でクロノグラフを停止させます(STOP)。クロノグラフの針がタキメータースケール上で指している数字が平均時速になります。



例：(START)と(STOP)の間隔が20秒であれば、タキメータースケールで読み取る平均時速は180 km/h (図1)。

30秒であれば平均時速は120 km/h (図2)。

1 kmに40秒かかったのであれば平均時速は90 km/h (図3)です。

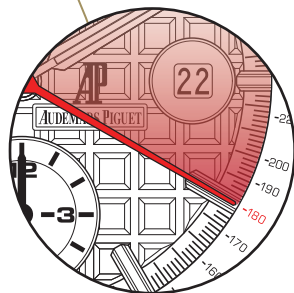


図1

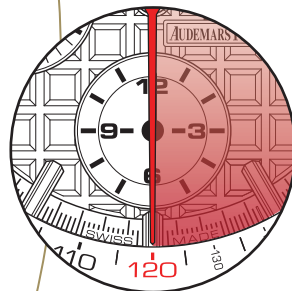


図2

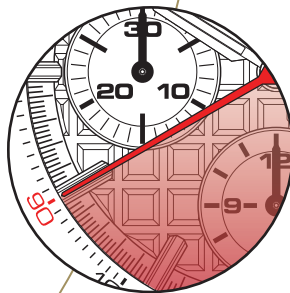


図3

